

本年度の目指す生徒の姿

- 学校のしくみを理解し、高校生活に展望が持てる生徒
- 学びの価値に気づいて、学びに真摯に向き合う生徒
- 夢や希望を抱き、その実現を目指す生徒

取組の視点

生徒

- 価値を与えて、気づきを促す
- 自己肯定感を醸成し、展望を拓く

教職員

- 原点に戻る（ねらいの意識化・明確化）
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識

重点目標	学校自己評価			学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	
学びのある授業	授業力の向上を全教員で協働して取り組む。特に学ぶ意欲の喚起を図る。	各教科で授業公開と授業研究会をセットで2回以上開催A、1回B、0回C アンケートから生徒の授業の満足度80%以上A、70%以上B、70%未満C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業への参加者が少ないので、増やす方策を考える。 ・アンケート項目の再検討をする。
居がいのある学校生活	生徒の活躍場面を設定した学校行事による自己肯定感を醸成する。 基本的な生活習慣の充実を目指す。	特活的行事への出席率が平均で70%以上A、60%以上B、60%未満C 授業の遅刻率が、20%以下A、30%未満B、30%以上C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事で企画立案から運営まで生徒が主体となれるよう工夫したい。 ・生徒指導部と協働で授業の出席率を上げたい。
進路や生き方につながる履修計画	進路実現に対する履修指導の構築、充実を図る。 とちぎの高校生「じぶん未来学」の効果的な計画立案と実践	生徒アンケートから、満足度が80%以上A、70%以上B、70%未満C 教員対象アンケートから、効果的な計画立案、実践が80%以上できたA、70%以上B、70%未満C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策の内容と生徒対象のアンケートの内容を一致させて取り組む。 ・じぶん未来学を家庭科と総合的学習の授業で実施していることを全職員に浸透させ、県からの指示内容を実践する。
困難な状況の生徒への支援	望ましい人間関係の形成への支援を行う。 各部署、S C等の連携によるチーム援助に取り組むことで、生徒の困難な状況を軽減する。	Q U調査の分析から生徒の人間関係形成満足度60%以上A、50%以上B、50%未満C 相談カードに挙げられた困難な案件がほぼ解決できたA、おおむね解決できたB、不十分だったC	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き調査分析、研修内容の充実を図り、望ましい人間関係形成への支援を行う。 ・今後も相談室、相談カードの利用を呼びかけ、出てきた案件に迅速に対応する。
開かれた学校、外部資源の活用	学校ホームページの充実を図る。 公開講座の内容等を更に充実し、学悠館について地域の方々に広く知っていただくようPRする。	アクセス数が一月1万回以上A、7千回以上B、7千回未満C 受講者アンケートから、満足度が80%以上A、70%以上B、70%未満C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保護者と共に受験生にも有益な情報を発信し、アクセス数を増やす。 ・公開講座の講座数の増設を目指す。
安全安心な学習環境の確保	いじめ防止に対する組織的対応 校内巡回指導や日頃の生徒観察、声かけを実施し問題行動の未然防止を目指す。	安心、安全サポート調査を基にいじめがうかがえる案件への適切な対応ができたA、おおむねできたB、不十分だったC 校内巡回指導や生徒観察がよくできたA、おおむねできたB、あまりできなかったC	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせて、継続的に対応していく。 ・特に年度当初に重点的に巡回指導を行い問題行動を未然に防ぐ働きかけをする。
				<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・保護者アンケート(分かりやすい授業、丁寧な学習指導など)から授業改善の努力のあとが見られる。 ○特活的行事への出席率が60%未満であったのが残念である。 ○計画に基づいた指導を行っている。様々な体験活動を通して生徒が成長しているのではないかと。 ○進学先の保証、在家生徒の減少が課題である。 ○様々な課題を抱えながら入学してくる生徒に対して、教員がよく対応している。 ○保護者や地域に対する情報発信が上手いっている。 ○ホームページや配布物など目に見える形で継続すべきである。学校が落ち着いている今がチャンスである。